

## <企画1>

# 国際ジョイントセミナー「東日本大震災の復興を考える」

---

## 世界8大学合同国際フォーラム

	開会の言葉 Opening Statement	森山 新 教授 (グローバル教育センター長)
発表①	“ Anniversary of 3.11 – Things that were, are and going to be” テレビ会議(オーストラリア・モナシュ大学)	高橋梨紗、松井泉歩 (日本・お茶の水女子大学) Nicholas Tait (オーストラリア・モナシュ大学) 他
発表②	『東日本大震災: チェコ共和国の反応と支援』(チェコ・カレル大学)	ウィレーム・フルーゼク、ダリボル・ヴィラーク
発表③	『日本の震災』(タイ・チェンマイ大学)	プリーヤーラット・ブンケ、マニーラット・ガームカム
発表④	『東日本大震災: 中国の反応』(中国・大連理工大学)	チェンツイーホン、ヘインマー
発表⑤	『韓国から見た東日本大震災』(韓国・釜山外国語大学)	キム・イリン、ヤン・エリン
発表⑥	『東日本大震災はドイツに影響を与えた?』(ドイツ・ボン大学)	マキシ―ピツカト、ケリン・ファルク
発表⑦	『東日本大震災: ポーランドの反応と支援』(ポーランド・ワルシャワ大学)	ユスティナ・ヤスノス、カナジナ・ヴェルベル
発表⑧	『相互理解と協力: トモダチからのスタート』(アメリカ・ヴァッサー大学)	ヴェロニカ・ウィーサー、ジャネット・カンザワ
発表⑨	“ Comparative risk perceptions of nuclear power plants in Fukushima, Tokyo and Manchester” (日本・お茶の水女子大学) 松田 晶子	
	“Living with nuclear risks?” (日本・お茶の水女子大学) 松田 彩香	
	閉会の言葉 Closing Statement	森山 新 教授 (グローバル教育センター長)

## 世界8大学合同国際学生フォーラム

8大学国際学生フォーラム開催中の3月12日(月)、モナシュ大学で短期研修を受けているお茶大生がテレビ会議システムを使用してフォーラムに参加しました。このテレビ会議には、お茶大生の他、同じくコンソーシアムプログラムでモナシュ大学の研修に参加している日本の他大学の学生と現地モナシュ大学の学生も一緒に参加しました。

### オーストラリア モナシュ大学

#### 8大学合同国際フォーラム テレビ会議参加感想

去年の東日本大震災から、なにかボランティア活動をしたいとは思いつながら、何もできなかった私にとって、お茶の水女子大で行われる8大学合同プログラムに参加出来た事は良いきっかけでした。震災からちょうど1年後にオーストラリアにいるのだから、オーストラリアの人の意識を調査したいと考え、震災プロジェクトを企画することにしました。

個人的に一番印象に残ったのは、どのようなボランティア活動があるか、と世界8大学の学生に質問された時に、大阪大学の中村さんが発した言葉です。『震災を忘れない事が一番大切な事だ。』震災から1年が過ぎ、良くも悪くも私たちの記憶は薄れていっています。被災地に継続的な援助を行うためにも、今回のような大きな被害を再び起こさないためにも、東日本大震災を忘れない事が大変重要な事なのだと感じました。

今回のテレビ会議を通して、東日本大震災についてもう一度深く考えるチャンスをいただき、私にとっても良い経験となりました。この経験を生かし、これからは復興に向けて活動をしていきたいと思っています。

お茶の水女子大学文教育言語文化 高橋 梨紗



#### モナシュ側参加者

Lisa Takahashi	Ochanomizu University
Mizuho Matsui	Ochanomizu University
Haoliang Zhao	Nagoya University
Hiroka Toyama	Nagoya University
Takahiro Tozuka	Nagoya University
Fukiaki Nakamura	Osaka University
Usada Satoshi	Osaka University
Miho Ohno	Osaka University
Toru Nakanishi	Kyushu University
Nicholas Tai	Monash University
Morgan Prothais	Monash University
Ryan Walsh	Monash University


MONASH UNIVERSITY

## ANNIVERSARY OF 3-11

--THINGS THAT WERE, ARE AND GOING TO BE--

---


Ochanomizu	Risa Takahashi Mizho Matsui	Kyushu	Toru Nakanishi
Nagoya	Takahiro Tozuka Haohang Zhao Hiroka Toyama	Monash	Nicholas Tall Morgane Prothais Ryan Walsh
Osaka	Setochi Usuda Fumiaki Nakamura Miho Ono		



MONASH UNIVERSITY

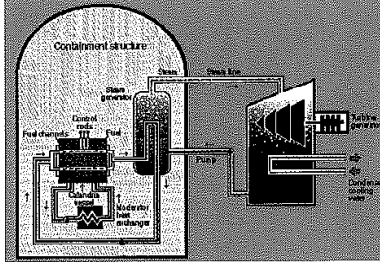
## What's Nuclear Power?

**Fumiaki Nakamura & Miho Ono**  
from Osaka University, Japan




MONASH UNIVERSITY

### The Mechanism of a Nuclear Power Plant

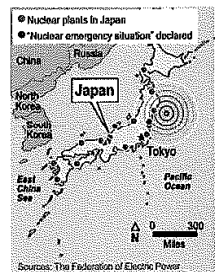


<http://www.world-nuclear.org/info/inf32.html>




MONASH UNIVERSITY

### Where are NPPs in Japan?



Sources: The Federation of Electric Power Companies of Japan, Nuclear and Industrial Safety Agency of Japan.  
By Janet Lee/MIA, USA TGOAY  
<http://www.usatoday.com/story/2011-03-14/japan-nuclear-explosion/1181>




MONASH UNIVERSITY

### Basic Facts in Japan

- ◆ The rate of dependency on Nuclear Power is 23.8% in 2008
- ◆ The number of Nuclear Power Plant is 54
- ◆ First built in Fukushima in 1971

### The Policy of NP before March 11 of 2011 in Japan


- ◆ Keep or increase dependency on Nuclear Power Plant from 23% to 30-40% by 2030
- ◆ Reprocess spent nuclear fuel



MONASH UNIVERSITY

### Why do we need NP?

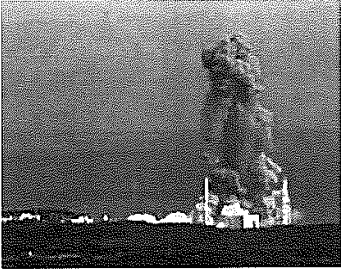
- ◆ Post oil power (due to the oil shock)
- ◆ To reduce CO2
- ◆ To increase energy self-sufficiency
- ◆ Peaceful use of Nuclear Power
- ◆ To get huge energy with little resource




MONASH UNIVERSITY

But...


<http://static.fourcc.com/secure/boaz28/k2.com/04g-enby-4523.html>




<http://www.yesaustralia.com.au/wh/11097/2946.html>



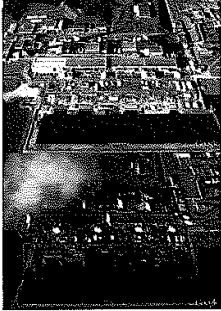
MONASH UNIVERSITY



<http://static.zenfs.net/2912.com/blog/enby-4522.html>




MONASH UNIVERSITY




before & after

<http://gabasaki.usa8to.jp/dog/2011/03/14/65739035>




MONASH UNIVERSITY

Now.  
How's Fukushima?




<http://www.33lok2.com/focuse/ks35cv4Rukushima.htm>



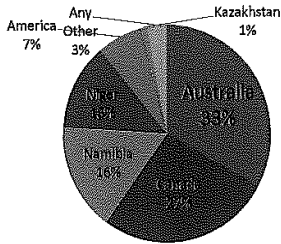
MONASH UNIVERSITY

*Where does the Uranium come?*




MONASH UNIVERSITY

The import of Uranium in Japan



Country	Percentage
Australia	83%
Canada	7%
Namibia	16%
Other	3%
America	7%
Kazakhstan	1%

In



MONASH UNIVERSITY

<http://www.uranium.gov.au/knowledge/index.cfm>

MONASH UNIVERSITY

### Australia

#### Production of Uranium

Country	Percentage
Any others	23%
Canada	9%
France	10%
Russia	8%
Namibia	10%
Australia	30%

2008

[http://resource.uh.edu.jp/top\\_uranium\\_country\\_production.html](http://resource.uh.edu.jp/top_uranium_country_production.html)

MONASH UNIVERSITY

### Australia Uranium Reserve

Reasonable Assured Uranium Resources  
4925 40 t Ug  
Tonnes U - January 2007

Country	Percentage
Uzbekistan	50%
Other	23%
Canada	9%
France	10%
Russia	8%
Namibia	10%
Australia	30%
Any others	23%
China	2%
USA	2%
India	2%
South Africa	2%
Japan	2%
South Korea	2%
Spain	2%
Belgium	2%
Sweden	2%
Iran	2%
USA	2%
Uzbekistan	2%
Other	2%

MONASH UNIVERSITY

### The World Situation of NP

SUPPORT	OPPOSE
China	Germany
France	Italy
Korea	Australia
America	
Russia	

MONASH UNIVERSITY

### Pros & Cons

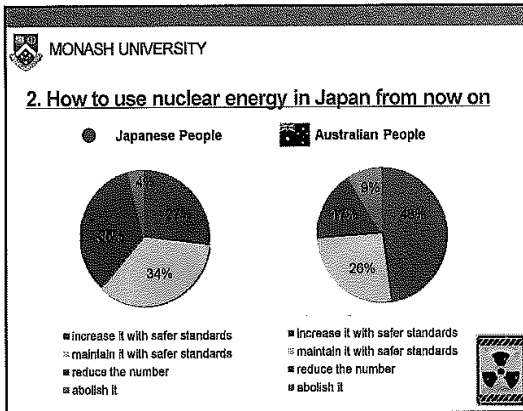
ADVANTAGES	DISADVANTAGES
<ul style="list-style-type: none"> <li>post-oil energy</li> <li>can reduce CO2</li> <li>can increase energy self sufficiency</li> <li>can get huge energy with little resources</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>the difficulty in dealing with spent nuclear fuel</li> <li>the accident of NP has a huge effect on the environment</li> <li>the possibility of diversion to nuclear weapons</li> </ul>

MONASH UNIVERSITY

### 1. Alternative Energy in Each Country

Q: Do you think your country CAN provide enough energy WITHOUT nuclear plants?

Country	Yes	No
Japanese People	35%	65%
Australian People	65%	35%



MONASH UNIVERSITY


### 2. How to use nuclear energy in Japan from now on

● Japanese People      🇺🇸 Australian People

What we felt about nuclear energy  
the merit and the risk of nuclear energy


What we can do from now on  
saving resources  
doing volunteer activities constantly  
studying harder about various fields

Our gratitude to the aid



MONASH UNIVERSITY

# Thank you




モナシュ大学側参加メンバー



モナシュ大学側テレビ会議の様子



お茶大側テレビ会議の様子

## 世界8大学合同国際学生フォーラム

チェコ  
カレル大学

## ウィレーム フルーゼク

Vilém Hrušek

カレル大学

このプログラムに参加した理由はチェコで行われた支援イベントを他の国から来ていた学生に対する報告だった。私は今まで日本へ行ったことがないから、日本に着いて、いろいろな考えさせられる発表を聞いた経験は私の心に忘れられない思い出を刻んだ。

日本に来る前に私は東日本大震災について、さまざまなまぎらわしいことを聞いた。でもみんなの報告は私の目を開けて、復興のために国民をとわずの協力が必要だということがわかった。苦しい経験をしている人は援助が必要だということも私に大きな感動を与えた。

帰国してから私の友達に東日本大震災の被害者を忘れないでくださいと言いたい。地震は本当におそろしい災害だと思う。そのため私は防災に力を注いで、国際の協力を強くしなければならぬと思う。チェコでこんな災害が起きたとしたら、国は混乱になるかもしれない。日本人は大震災に対して協力ができるのは賞賛すべきだと思う。

機会があったらぜひまた日本に行きたい。またなにかの寄付イベントに参加したいと思う。このフォーラムは非常におもしろい経験になった。

## ダリボル ヴィラーグ

Dalibor Virág

カレル大学

日本へ行ったことはまだないと思って、きついい経験になるだろうと思いました。でも何でいい経験になるのか十分考えたあとで、実は日本人にだけでなく、全世界の人々に非常に大事なことについて話したり、聞いたりすることでいい経験になるということが分かりました。

そのきっかけで東日本大震災が発生したころの自分自身の複雑な感情が出てきて、国際学生フォーラムのために様々な準備をし始めました。そういう準備の時には私たちスロバキア人はその当時日本の東北地方を助けるために何ができたのか自分自身に問い続けました。もちろんスロバキアやチェコにはいろいろな寄付イベントが行われたが、それだけで十分でしょうかと疑ってしまいました。

日本のフォーラムに参加してみて分かったのは世界中の国々ではたいだい同様なイベントが行われたから、境界のないような世界がもっと小さくなったことです。それで一番言いたいのはどんな災害でも世界のみんなで協力ができるでしょう。



## \* 東日本大震災：チェコ共和国の反応と支援

ダリボル・ヴィラーク  
ヴィレーム・フルーゼク

\* 2011年3月11日午後2時46分  
(日本の時間)

\* 最初から実況の傍受

## \* 東日本大震災

\* 日本の東北地方で巨大地震とそれに伴って発生した津波が大規模災害を引き起こしたということ

\* 一番早いニュースが午前7時19分に来た(午後3時19分 日本の時間)

## \* チェコやスロバキアのマスメディア

\* カレル大学から留学生が日本にいた

\* チェコ人の日常生活が続いていた

\* 日本研究学科の私たちは毎日ニュースをまとめて話した

\* 本当に複雑な気持ちだった

## \* 私たちの感情

\* 誤った情報も伝えた

\* ソーシャル・ネットワーキング・サービス

\* 恐慌の様子

## \* マスメディアのマイナス影響

\* 福島第一原子力発電所の問題

\* 日本人も東欧の市民もすごくひどい原子の災害を経験した

\* 誤報



## \* 「福島次のチェルノブイリ？」



- \*チェルノブイリ原子力発電所事故
- \*福島第一原子力発電所事故
- \*放射能の恐れと影響



## \*「福島次のチェルノブイリ？」

- \*チェコ政府とチェコの人々の反応と哀悼
- \*放射能の恐れと影響
- \*ボランティア活動

## \*チェコ人の地震の後の対応

- \*日本にいたチェコ人のためにチェコ政府は特別な軍用機を二機飛ばした。



## \*チェコ人の安全の事

- \*放射能の恐れ。
- \*チェコ人は薬局でヨウ素を買った。
- \*放射性物質放出による核の雲。
- \*チェコに原子力発電所が二つある。
- \*チェコのエネルギー政策に影響を与えない。



## \*放射能の影響の事

- \*チェコからいくつかのボランティアと救助者が日本へ助けに来た。



## \*ボランティア活動の事

- \*チャリティーコンサート
- \*展覧会
- \*バザー
- \*フェスティバル
- \*義援金

## \*チェコにおける支援のイベント

\* チェコにある国際チャリティの組織が献金を集めた。  
\* チェコ・日本友好協会  
\* アドラ  
\* 救世軍  
\* カトリックのチャリティ  
\* 赤十字



\*チャリティによる寄付

\* コンサート  
\* 展覧会  
\* ハブニング  
\* 写真：チェコ・フィルハーモニー管弦楽団のコンサート



\*民間組織によるイベント

\* ベラ・チャスラフスカはオリンピックのバッジを寄付した。



\*ベラ・チャスラフスカの寄付

\* カレル大学の学生も寄付イベントを開催した。  
\* 写真：法学部であったイベント



\*学生によるイベント

\* チェコでは特にチェコ・日本友好協会がいろいろな支援のイベントを整理した。  
\* 金額 1 476 388 CZK  
\* 謝辞者



\*チェコ・日本友好協会の活動

終わり

御清聴ありがとうございました。

## 世界8大学合同国際学生フォーラム

タイ  
チェンマイ大学

## プリーヤーラット ブンケ

Preeyarat Boonke

チェンマイ大学

タイはあまり地震がないので地震は当たり前のことではありません。私はいつも地震のことがこわいです。どうすればいいの？どこへ逃げればいいのか？ということについてよく考えて、心配しています。だから、その時私は日本人に疑問があります。日本人は日本がよく地震があることとつながりが起こることを分かっているのに、どうしてまだ日本に住んでいるの？怖くないの？ほかの国へ引っ越した方がいいと思わないの？ということを考えました。

しかし、日本へ来た後私はだんだんそのことを分かります。イベントに行ったことと発表を聞いたことも、今私の考えはたぶん日本人にとって地震が起こったことはしょうがないのことだと思います。自然の力はだれでも勝つことができなと思います。日本人は自然に勝つことができなくても、防ぐ方法を考えてがんばったほうが良いと思います。そのところはタイと本当に違います。タイ人は地震を防ぐ方法はあまり気にしないで、日本人はみんな地震とつながりかについて勉強して防ぐ方法を分かっている。それは私は日本人はよく考えているなと思います。

将来また機会があったら、私は日本へ行きたいです。今回は日本へ来たのでびっくりしたこと、感動したこと、疲れたこと、楽しかったこと、全部経験になりました。将来は日本語の教師になりたいと思います。私は今回の経験を家族と友達と将来の私の学生に伝えます。これから日本語の勉強をがんばりたいと思います。

## マニーラット ガームカム

Maneerat Ngamkham

チェンマイ大学

タイでは地震が起こることもありますが、日本ほど大きくないです。それで、日本で地震があったら、大学の先生と学生たちが非常にこのことを興味を持つようになりました。授業の中でこの震災についても良く話しました。みんな悲しい気持ちになって、日本に何かを手伝いたいと考えていました。そして授業の後にもいっしょに日本のために支援活動を考えました。日本語学科では1年生も2年生も30人ずつしかいません。しかしながら、私と友達は精一杯募金活動をしました。これだけではなく、チェンマイでの日本の総領事館の呼びかけに応じて、支援活動に参加しました。人数が少なくても、日本のために何かをできると、うれしかったです。

今回も日本のお茶の水女子大学で日本の震災のフォーラムに参加して本当にうれしかったです。いろいろな国と日本を応援する活動をしたり、いろいろな日本の震災の話をしてしました。日本の学生たちも丁寧で、いろいろお世話にのってください、うれしかったです。そして、今回自分の国での震災のニュースを紹介することができました。他の国の発表を聞くことができ、勉強になりました。日本人の学生たちと1週間交流もできて、楽しかったです。



## 日本の震災 シンポジウム

チェンマイ大学

## チェンマイ大学

タイで今回の震災はどのような  
ように報じられましたか？

タイで今回の震災はどのように報じられましたか？



一番早かったのはテレビである。

タイで今回の震災はどのように報じられましたか？

- 被害の状況
- 被災地
- 被災者のようすや生活
- 首都東京ではどのような影響を受けたか
- 地震や津波が起こって、家がなくなった被災者の人たちが避難所でどう過ごしているか
- 高齢者の世話をすること

ニュース番組終了時間

新聞

どの新聞でもショッキングな見出しと写真でタイ人にショックを与えました。

タイラット新聞

デリニュー新聞

コンシャツルック新聞

日本の震災でタイがどのように支援しましたか？

日本の震災でタイがどのように支援しましたか？

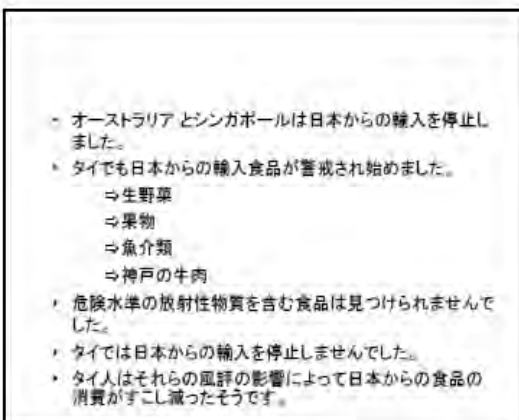
タイの政府

日本の外務省に義援金と救援物資をおくること

首相も様々なメディアを通して、大震災発生に対する悲しみを伝えること。

タイの芸能人





- テレビやインターネット、新聞などを通して、ニュースを知ることができます。
- 去年の夏休みの4月に、クラスメート十五人と一緒に、日本人被災者を助けるため、チェンマイのナイトバザールという有名な繁華街へ行って、外国人とタイ人からお金を集めることになりました。
- その時は6時間で、7千パーツも集まりました。
- 献金は全額日本人の被害者に送り届けました。

ちょっと疲れましたが、役に立てて本当に嬉しかったです。



終わりです